

あす
未来の地球に持続可能な環境を創る企業



CSR Report 2015





未来の地球に
持続可能な
環境を創る企業

加藤商事は「次世代に生活する快適さと持続性の調和した環境を残すことが、今存在する当社の責務である」と考え、経営理念を『未来の地球に持続可能な環境を創る企業』とし、社員の思いを集め全力で事業に取り組んで参ります。

目次

会社概要・CSR経営理念	02
CSRトップメッセージ	04
特集①:55年を経て～これからの加藤商事を考える～	06
特集②:動き続けるために～事業継続計画(BCP)策定～	08
CSRの重点課題	10
人財/安全衛生/CS(顧客満足)/環境/地域貢献	
CSR調達方針	22
第三者意見	23

会社概要

会 社 名	加藤商事株式会社
代 表 者	代表取締役 加藤 宣行
所 在 地	東京都東村山市恩多町1-12-3
赤 坂 営 業 所	東京都港区赤坂4-4-14 未来環境創造ビル1F
東 大 和 営 業 所	東京都東大和市奈良橋5-812-21
町 田 営 業 所	東京都町田市鶴間519-11
設 立 本 金	1960年4月(昭和35年) 4,050万円
売 上 高	14億3200万円(2014年9月決算期)
従 業 員	118名(2015年4月現在)
事 業 内 容	一般廃棄物収集運搬／産業廃棄物収集運搬／容器包装プラスチック中間処理／ビルメンテナンス業／廃棄物・3Rコンサルティング／省エネ商材販売／省エネコンサルティング／各種省エネ関連報告書作成支援



CSR
経営理念

当社にしかできないサービスを提供し、
ステークホルダーとともに最高の環境を実現する

加藤商事では、未来の地球に持続可能な環境を創る企業という企業理念のもと、地域の方々の“環境”に貢献する事業を展開しています。「当社にしかできない質の高いサービスを提供し続けること」が、私たちのCSR(企業の社会的責任)の基礎であると考えています。さまざまなステークホルダーの方々と双方向でコミュニケーションを行い、最高の“環境”を提供できるようコンプライアンスを遵守したCSR活動を行って参ります。

CSR基本方針

ステークホルダーごとに以下の方針を設け、社会的責任を果たしていきます。

お客様 取引先	<ul style="list-style-type: none"> ■お客様の信頼につながる質の高い商品・サービスを、常に提供する。 ■共にコンプライアンスを遵守し、質の高い商品・サービスを提供することのできるパートナーと関係を築く。
地 域	<ul style="list-style-type: none"> ■市民の皆さまが安心・安全に生活できる最善のサービスを提供する。 ■積極的に地域社会とコミュニケーションを図り、また地球環境に対し先進的に取り組む。
社 員	<ul style="list-style-type: none"> ■お客様へ最高のサービスを提供できる人財を育成し、活気ある職場作りを行うことで最大限の成果を出し続ける組織を目指す。

加藤商事の 約束

(CSR行動憲章) http://katosyoji.tokyo/csr_torikumi/4778/



編集方針

本報告書は、加藤商事におけるCSR(企業の社会的責任)の基本的な考え方と取り組み・実績についてその情報を開示し、ステークホルダーとの関係を大切にしながら、経営の改善・向上を目的とするものです。重点課題を「人財」「安全衛生」「CS(顧客満足)」「環境」「地域貢献」の5つとし、それぞれの活動を紹介しています。情報の信頼性を確保するため、第三者意見書を添付しています。

対象期間	2014年度(2014年4月～2015年3月)
対象範囲	加藤商事株式会社 本社・営業所全体
参考としたガイドラインなど	<ul style="list-style-type: none"> GRI【サステナビリティレポーティングガイドライン】第3版 環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版) ISO26000「社会的責任に関する手引き」
発行日	2015年8月



CSRトップメッセージ

自走する環境の スペシャリスト集団を目指して ～つながりの力で“困った”を解決する～

加藤商事株式会社
代表取締役 加藤宣行

2015年度を振り返って

当社は「自走」をテーマに掲げ、自らの考えにもとづいて行動することを社員一人ひとりに求めています。社員一人ひとりが環境というフィールドの中で、自分に何ができるか、どんな役割を担うべきなのかを認識し行動してほしいと考えています。昨年は、社員の意識が大きく変わり、「自走」への手応えを感じられた一年となりました。

例えば、昨年各課にそれぞれ自分たちが目指すべき姿についてスローガンを考えてもらいました。収集運搬課は「当たり前の継続」、資源再生課は「一人ひとりが役割を理解し仕事を確立する」、総合建物管理課は「お客様へまごころと感謝の意をこめて仕事は丁寧に」など、お客様から何を求められているのか、当社の強みは何かをきちんと考えた上で「お客様とのつながり強化」を目的とするスローガンを設定してくれました。また、照明商材の販売では現在アフターフォローに力を入れています。導入いただいたお客様に気持ちよく使っていただるためにできることはないか、もし点灯不良となつた場合どう対応するかなど、工事部門を含め、その対応について自主的に会議で話し合っています。このように、それぞれの業務で社員が「持続可能な環境を創る企業」とはどんな企業なのかを自問しながら真摯に取り組む姿を見る機会が増え、着実に加藤商事が成長していると感じています。

「まずは加藤商事に相談してみよう」と言ってもらえるような、環境のスペシャリスト集団になるために、社員と共に成長していきたいと考えています。また、社員の取り組みだけでなく、会社としての取り

組みにも力を入れていきたいと考えています。例えば、昨年度はペットボトル受け入れのための改修と合わせて、事業活動に伴う環境負荷を低減するため、工場既存設備を省エネタイプのものへ更新しました。今後も、環境企業として期待される役割を担うため、環境対策にも積極的に取り組んでいきます。このような当社の活動をより推進するため、今後は各ステークホルダーとの対話の機会を積極的に作っていきたいと考えています。いろいろな方々のお知恵、お力を借りし、ともに「持続可能な未来（あす）の地球」を創っていければと思っています。

事業活動について

現在、「見守り回収」「ふれあい回収」を行っています。これらの取り組みをより発展させ「お客様とのつながり」「地元とのつながり」を大切にしながら事業を展開してみたいと考えています。昨年度はペットボトルの工場受け入れや、PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物処理支援業務の営業展開など新たな事業を始めました。当社の強みでお客様の「困った」を解決できるように既存の事業だけでなく「加藤商事ができることはなにか」と日々自問していきたいと考えています。困ったことがあればぜひ、当社にご相談いただき、ともに解決策を見つけていきたいと思っています。また、近年原子力発電の見直しや化石燃料の環境問題が取りざたされています。当社では、「ごみ」と「エネルギー」を商いとする企業として、「自然エネルギー」に着目し太陽光の導入を進めています。持続可



る人財を生かすため、受け入れ体制を整え就業をサポートしています。受け入れた障がいの方の仕事に真剣に取り組む姿勢は、周りの社員を触発し、職場の雰囲気向上にもつながっています。

また、まだ具体的な形になっていませんが、現在社員がいろいろなことにチャレンジできる仕組み作りを検討しています。選択肢を増やすし、社員の成長に必要な「機会」を創っていきたいと考えています。

社員の尊重ワークライフバランス

中小企業は、社長の強いリーダーシップで動くことが多いと思います。しかし当社では、社員一人ひとりが「持続可能な環境を創る企業」とは何かを考え、自ら思考し自由に業務を行うようになることを目指しています。そのための支援策の一つとして、資格支援制度の見直しを行いました。従来は、既存の業務を行う上で必要になる資格を中心に社員にとってもらっていましたが、「こういうことをしていきたい、そのためこの資格が必要なのでとりたいです」と社員からも声が出るような仕組みに変えることとしました。自分たちの意見が形になり、やりたいといえばチャンスにつながる、そのように思える風土創りにつなげていきたいと考えています。

また私は、仕事の充実と私生活の充実は切っても切れない関係だと考えています。そのため、社員が長く働ける環境創りにも力を入れています。残業時間の削減や有給休暇取得推進のための取り組み、家族にどんな職場で働いているのか知ってもらい、働くことを応援してもらうための子ども参観や工場見学などを実施していきます。

これらの取り組みに加え、当社は障がい者の雇用も積極的に行ってています。当社で働きたいと思ってくれ

地元の安全・衛生を守り続けるために

当社は地域の皆さんと密なつながりを持たせていたり、「お客様とのつながり」と「地元のつながり」が強みです。当社の業務が、不測な事態により業務活動の停止になった場合、地域の皆さんの生活に直接的な影響を与えてしまします。そのため、地域の皆さん的生活を守り安定したサービスの提供が必要不可欠になります。収集運搬課のスローガン「当たり前の継続」の通り、どんな時でも着実に業務を行っていくことが使命であると感じています。そこで、BCP（事業継続計画）を作成し、社内周知を行いました。BCPの運用・見直しを行いながら、不測の事態を想定し、安定的なサービス提供ができるよう今後取り組んで参ります。

また当社では、「地元とのつながり」を尊重し地域行事への参加も積極的に取り組んでいます。地域の皆さんと交流でき、当社について市民の方に知っていただけます。貴重な機会になっています。今後は、地域行事への参加継続だけでなく自ら発信者となり、イベント運営や周辺企業との連携を強めていきたいと考えています。



■ 55年間、地域とともに

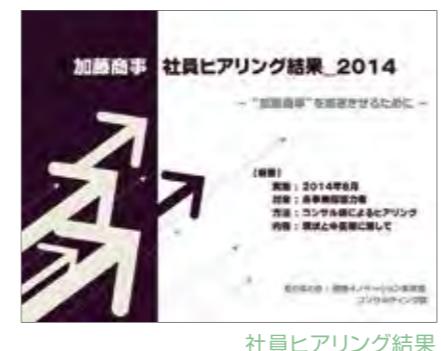
当社は長年、地域の「廃棄物(ごみ)」に関する課題に行政や市民の皆さんとともに取り組んで参りました。時代とともに排出されるごみの種類も変わり、収集運搬や処理方法の技術も進歩しました。また、環境意識の高まりにより、廃棄物処理業に対するイメージも「環境をよくする仕事」へと変わり、単に「ごみを処理する」だけではなく、企業として「環境負荷低減」への取り組みや「社会貢献活動」が求められるようになりました。このような大きな変化の中で、56期目を迎えたことは、多くの方々の支えのもと、その時々の課題を解決するため、知恵を出し合って取り組んできた結果だと感じております。今後、ますます変化のスピードが速まり、ニーズも多様化する中でも、100年、200年と続く企業を目指し、当社の強みを生かしながら市民の皆さんやお客様に「価値あるサービス」を提供し続けて参ります。

これからの加藤商事

現在、当社は「廃棄物対策・衛生管理分野」と「温暖化対策・エネルギー分野」の2つの事業分野に取り組んでいます。『未来(あす)の地球に持続可能な環境を創る企業』という企業理念のもと、それぞれの業務をより拡充していきたいと考えております。そのためには、社員一人ひとりが「加藤商事の社員として正しい判断」をすることが必要となります。「加藤商事としての判断」をするためには、当社の「目指すべき姿」を共有すべきとの社員からの提案を受け、判断の基準を明文化する『我が社の経営戦略』プロジェクトを立ち上げました。

■ 『我が社の経営戦略』の作成

『我が社の経営戦略』を作成するに当たり、本社・赤坂営業所社員へのヒアリングを行いました。今の加藤商事への思いや、今後やりたいこと、伸ばしていくことなどについて意見を求め、資料として整理しました。この資料をもとに、経営陣とプロジェクトメンバーによる話し合いを行い、『我が社の経営戦略』を取りまとめました。



社員ヒアリング結果

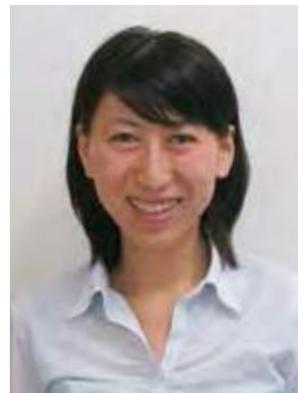
社員に向けて～経営戦略勉強会～

『我が社の経営戦略』を社内に広めるため、経営戦略勉強会を開催しました。当日は代表より、当社の理念やこれまでの経営について、今後の会社としての方向性、経営の未来像(中長期計画)について説明がありました。代表より、「これからの加藤商事の発展を皆さんと一緒に考えていきたい」との言葉に、社員も真剣に聞き入っていました。



担当者の声

私は入社した時から、代表の熱い思いに共感しており、それがいつも目に見える形で手元に置いておくことができればいいなと思っておりました。そのような思いから今回、『我が社の経営戦略』プロジェクトのメンバーに参加でき、大変うれしく思っております。『我が社の経営戦略』は今回が初めての取り組みですが、一度作成して完成というわけではありません。これをたたき台として、社内の議論がより活発になり、会社の成長していく姿を共有することが目的であるため、毎年ブラッシュアップしていくことを計画しています。このプロジェクトを通じて、社員や経営層の意見に触れたことはいい経験となりました。このような取り組みを通して、さらに社内でのコミュニケーションが深まれば、加藤商事と社員一人ひとりの成長につながると思います。『我が社の経営戦略』プロジェクトを進めながら、各ステークホルダーの方々と一歩進んだ関係を築いていきたいと考えています。



環境イノベーション事業部
コンサルティング課
『我が社の経営戦略』
プロジェクト担当
佐々木 由佳

トピックス【新・エコ工場パンフレット】

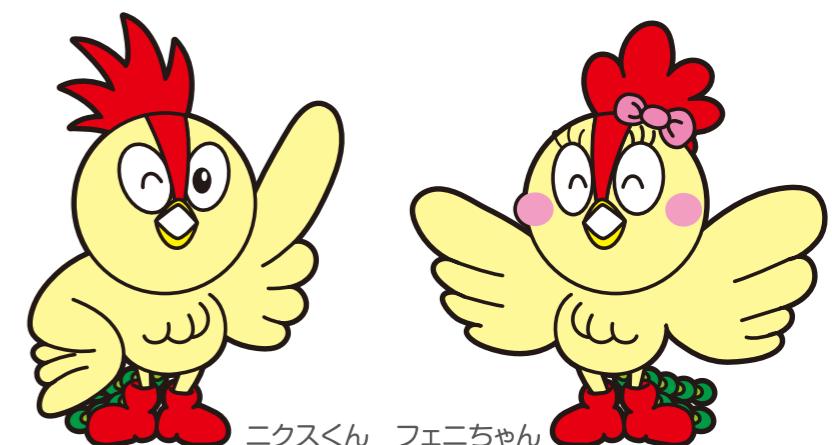


当社エコ工場では、容器包装プラスチック・ペットボトルの中間処理を行っています。皆さんに分別いただいたプラスチック・ペットボトルがエコ工場でどうなるのかを分かりやすくまとめた、新エコ工場パンフレットを作成しました。イラストや写真で処理工程を説明しています。近日中にホームページも新エコ工場パンフレットに合わせて更新予定です。また、親しみやすい工場を目指して、エコ工場のキャラクターを作りました。

キャラクター紹介

フェニちゃんとニクスくん

当社エコ工場の案内をしてくれる「フェニちゃん」と「ニクスくん」です。パンフレットやホームページ内で3R(リデュース、リユース、リサイクル)について、説明してくれます。



エコ工場のキャラクター

ニクスくん フェニちゃん



加藤商事では、自然災害などにより収集運搬業務並びに本社工場に被害が生じた場合を想定したBCP(事業継続計画)を策定しました。まずは、定期的な訓練等により社内への浸透をはかる予定です。いざという時にきちんと対策できるよう、日頃からできることを取り組んでいきたいと考えています。

BCP(Business Continuity Planとは)

BCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)とは、大規模災害を想定し、「災害が発生する前に予め対応方法を定めておき、災害発生後の混乱した状況下での意思決定などに対する負担を軽減し、整然と業務を行えるようにする」計画のことです。

■ 基本方針

目的

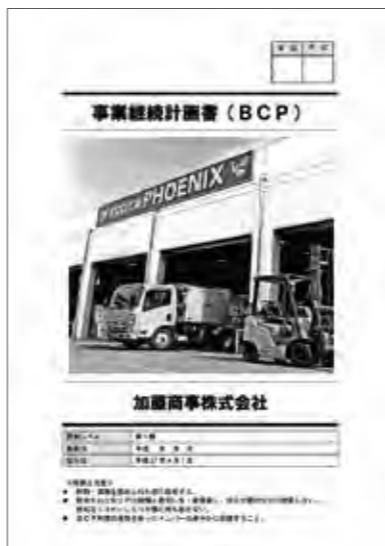
- 社員と家族・訪問者の身の安全を守る
- 早期の業務再開をはかり雇用を維持する
- 事業機会の逸失を回避

対象事業

- 一般廃棄物収集運搬
- 容器包装プラスチックならびにペットボトル中間処理

想定範囲

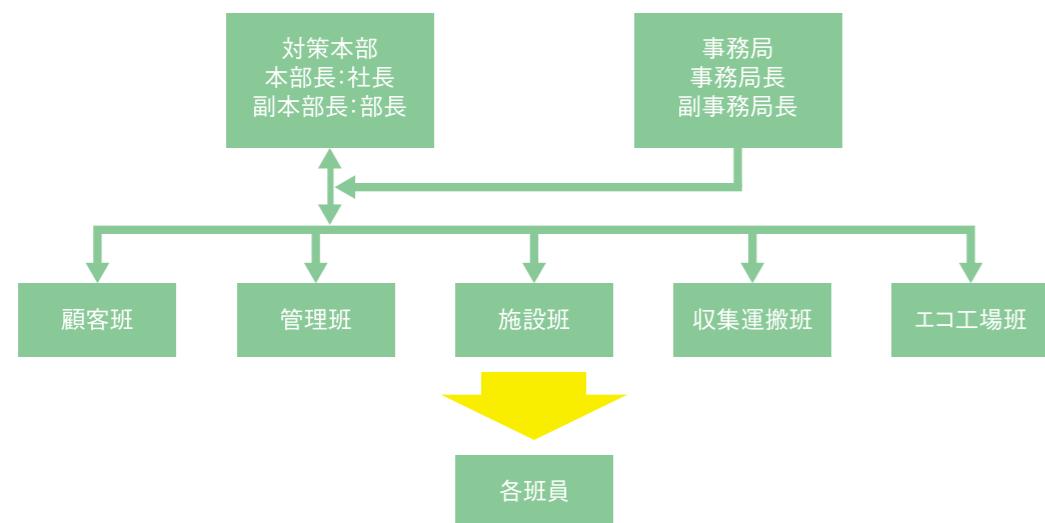
- 想定災害:震度6強の大地震
- 想定被害:電話・電気・水道・道路等のインフラが使用不能/建物、IT設備、OA機器なども使用不能



■ 危機管理体制

実際の災害時には、本社に災害対策本部と事業復興に責任を持つ各部署が連携をとって、災害の初動対応、事業復興を行う体制をとります。また、社員一人ひとりに防災カードを配布して災害時にパニックに陥らないように各自の役割を明確にしていきます。

■ 組織図



■ 対策本部の役割

名称	役割	担当者
対策本部	情報集約、活動指示、指揮命令、意思決定	(本部長)(副本部長)
事務局	緊急時体制全般の総括運営 情報集約・活動指示、对外情報発信	(事務局長)(副事務局長)
顧客班	対外交渉の指揮・管理 顧客対応、取引先対応	(班長)(代理)
管理班	情報管理・調整・内部発信、 对外情報発信、情報収集、従業員対応	(班長)(代理)
施設班	業務復旧の指揮・管理 業務再開措置(被害調査、本社施設・設備復旧、業務再開)	(班長)(代理)
収集運搬班	業務復旧の指揮・管理 業務再開措置(被害調査、収集設備復旧、業務再開)	(班長)(代理)
エコ工場班	業務復旧の指揮・管理 業務再開措置(被害調査、工場・設備復旧、業務再開)	(班長)(代理)

初動時の行動計画

就業時間内の対応 (平常時)	1. 身の安全の確保…稼動中の設備・機器・電気設備があれば緊急停止 2. 発火確認…初期消火を実施 3. 負傷者発見…救護者を発見したら応急手当を実施。救急へ要請もしくは最寄り医療機関へ連絡 4. 異常・危険を察知/避難勧告…全員を決められた避難所へ移動 5. 安否確認…各課の責任者が人数及び安否確認後、対策本部に報告 状況により、従業員を帰宅させるかどうかを判断
就業時間外の対応 (出張/通勤中・在宅時)	1. 従業員本人・その家族の安否・安全の確認…各課の責任者が安否を確認後、対策本部に報告 2. 公共機関・道路の状況を把握…出社・帰社・帰宅の可否/移動手段の有無を確認 3. 出社の判断…原則として全社員出社(出社不要の場合のみ施設より連絡) 4. 交通機関のマヒ、ライフラインが寸断した場合は自宅待機 5. 対策本部メンバー、各課の責任者は可能な限り出社

■ 社員への訓練

今後、当社では年3回にわたり、避難訓練・安否確認訓練・災害時対応の確認訓練(机上訓練)に取り組む予定です。

避 難 訓 練	地震を想定して屋外避難と点呼、初期消火訓練(毎年10月実施予定)
安 否 確 認	携帯メールで安否を問う連絡をし、回答を求め、結果を集計する。(毎年7月予定)
災害時対応の確認訓練 (机上訓練)	緊急参集メンバーがBCPに対する知識を深め、各要員が行うべき対応を確認する。(毎年8月予定)
訓 練 場 所	本社社屋及び駐車場
対 象 部 門	本社部門全体
想定する非常事態	今後は災害時を想定した訓練に力を置き、エコ工場・収集業務の活動再開へのスピードアップに力を入れる。
地 震 (震 度 6)	



加藤商事では、ステークホルダーの期待と関心や自社にとって重要度が高い『5つのテーマ』をCSR活動の軸として取り組んでおります。日々の事業活動を通じ、社会や環境にかかわる課題に真摯に向き合い、新しい社会価値の創造に取り組み、すべてのステークホルダーの皆さまへの責任を果たしていきます。



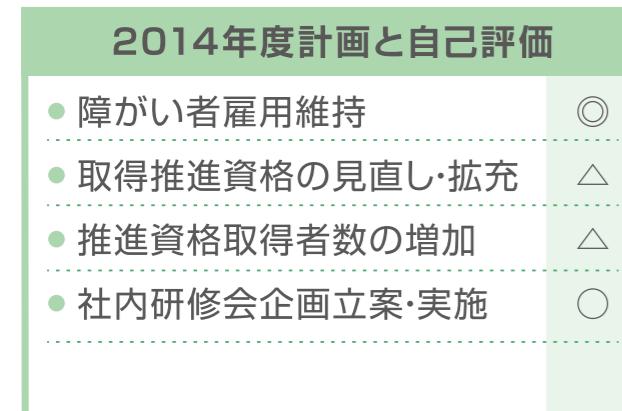
■ CSR行動計画

CSR活動を効果的に推進していくために、5つの重点テーマについて、取り組み内容をより明確にし、PDCAを回しながら継続的に取り組んで参ります。取り組み結果を踏まえた上で、次年度の取り組みを計画しています。具体的な内容については、各テーマの掲載ページをご覧ください。

人財

詳細は12ページ

◎:達成 ○:おおむね達成 △:努力の余地あり

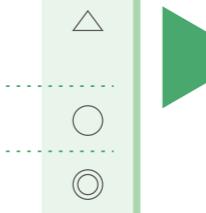


安全衛生

詳細は14ページ

2014年度計画と自己評価

- 死亡災害・労働災害・交通事故を「ゼロ」にする
- 安全教育の実施
- 安全衛生巡回の継続実施



2015年度計画

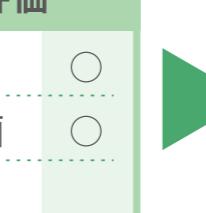
- 死亡災害・労働災害・交通事故を「ゼロ」にする
- 安全教育の実施
- 安全衛生巡回の継続実施

CS (顧客満足)

詳細は16ページ

2014年度計画と自己評価

- 法人向け満足度向上企画
- 市民向けの満足度向上企画



2015年度計画

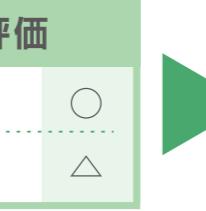
- セミナー、メルマガなどの情報発信
- アフターフォローの検討・充実
- 地元イベントへの参加

環境

詳細は18ページ

2014年度計画と自己評価

- EMSによる継続的改善
- 新たなビジネスの企画立案



2015年度計画

- EMSによる継続的改善
- 新たなビジネスの企画立案

地域貢献

詳細は20ページ

2014年度計画と自己評価

- 環境教育の企画立案
- エコ工場フェニックス見学会
- ドライバー普通救命講習受講
- BCP(事業継続計画)の作成



2015年度計画

- 環境教育の企画立案
- エコ工場フェニックス見学会
- ドライバー普通救命講習受講
- BCP(事業継続計画)の運用

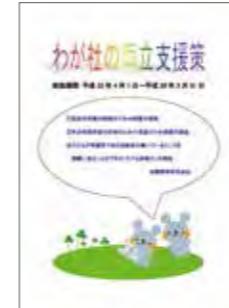


■ 一般事業主行動計画の取り組み

当社では、一般事業主行動計画を定め、平成23年4月から平成26年3月までを第1計画期間、平成26年4月から平成29年3月までを第2計画期間として取り組みを進めてきました。社員が生き生きと働くことのできる環境を作るため、今後も取り組みを進めて参ります。

一般事業主行動計画とは

次世代育成支援対策推進法に基づき、企業は、従業員の仕事と子育てに関する「一般事業主行動計画」を策定することとなっており、常時雇用する従業員が101人以上の企業は、この行動計画を策定し、その旨を都道府県労働局に届け出ることが義務とされています。(100人以下の企業は努力義務)一般事業主行動計画とは、事業主が従業員の仕事と子育ての両立を図るために雇用環境の整備や、子育てをしていない従業員も含めた多様な労働条件の整備などに取り組むに当たって、①計画期間②目標③目標を達成するための対策の内容と実施時期を具体的に盛り込み策定するものです。



第1計画期間取り組み一例

計画内容

社員が仕事と子育てを両立させることができ、社員全員が働きやすい環境を作ることによって、すべての社員がその能力を十分に発揮できるようにするとともに、地域に貢献する企業となるため次のように行動計画を策定する。

第1計画期間		
目標1	目標2	目標3
所定外労働を削減するため、ノーギャラ付残業デーを設定、実施する	年次有給休暇の取得促進のための措置を講じ、有給休暇の取得数を増やす	子どもが保護者である社員の働いているところを実際に見ることができる「子ども参観日」を実施する
<ul style="list-style-type: none"> ● 所定外労働の現状を把握 ● 社内検討委員会で検討開始 ● 毎週水曜日をノーギャラ付残業デーとする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年次有給休暇の取得状況について実態を把握 ● 検討委員会での検討開始 ● 社内広報誌などによる取得促進キャンペーンの実施 ● 誕生日や記念日に有給休暇を取得するアニバーサリー制度の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 検討会の実施 ● 社内広報誌などによる社員への参観日実施についての周知 ● 夏休みを利用し、参観日の実施

第2計画期間		
目標1	目標2	目標3
所定外労働を削減するため、毎週水曜日のノーギャラ付残業デーを継続する	年次有給休暇の取得促進のための措置を講じ、有給休暇の取得数を増やす	地域の子どもたちを対象に、工場見学ができる体制を創設する
<ul style="list-style-type: none"> ● 所定外労働の現状把握 ● 各部署における問題点の検討 ● 社内掲示による社員への周知 ● 社員への一斉メールや定期的な見まわりを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年次有給休暇の取得状況について実態を把握 ● 各部署における問題点の検討 ● 社内広報誌を活用した周知啓発の実施 ● 休暇取得を促進するため社員に有給カードを配布、取得計画を策定、実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 受け入れ体制について検討会の実施 ● 受け入れを行う工場への説明及び体制作り・関係機関との連携 ● 子ども用会社案内などのパンフレットの整備

■ 資格取得支援制度見直し

当社では、各従業員の主体的なキャリア形成を支援するため、認定資格について受験料や資格手当を会社が支給し、自主的な自己啓発・スキルアップを目的とした資格取得を支援しています。近年、事業内容が変化してきていることを踏まえ、中長期計画に則した資格支援制度へと見直しを行うこととしました。今年度の見直しでは、既存の業務で必要となる資格を洗い出し、資格の重要度と難易度によりAからD、対象外に分類しました。次年度以降、経営戦略書(中長期計画書)の事業展開と合わせ、今後必要となりうる資格のリスト化を行う予定です。企業全体のレベルアップが図れるよう、資格を取得しやすい環境作りに今後も取り組んで参ります。また、資格支援制度だけではなく、社員一人ひとりがキャリアアビジョンを明確に描けるような取り組みを進めていきたいと考えています。



■ 障がい者雇用の取り組み

当社では、平成21年度より障がい者雇用に取り組んでいます。平成25年には東京しごと財団が推進している「障がい者職場体験実習受入登録企業」制度を活用し、職場体験の受け入れを行いました。このような当社の取り組みに対し、国立障がい者リハビリテーションセンターより感謝状をいただきました。今後も、当社の業務に関心を持った方がいれば、積極的に実習の受け入れを行っていきたいと考えています。また、受け入れた方々がその能力を十分に発揮できるよう、職場環境作りにも取り組んで参ります。



工場での作業風景

障がい者雇用の取り組み

- | | |
|-------|---|
| 平成21年 | ● 事務員として採用 |
| 平成25年 | ● 障がい者職場体験実習受入登録企業制度活用
● 職場体験実施、2名採用 |
| 平成27年 | ● 継続雇用中(うち1名は正社員化) |



職場体験実習による感謝状



■ 安全成績

2014年度の労働災害度数率(100万労働延べ時間当たりの死傷者数)は22.9と、一般・産業廃棄物の平均値を大きく上回ってしまいました。件数としては合計6件となっております。過去5年間を振り返っても死傷者数が0件となった年は残念ながらありません。これからも安全第一に、事故の撲滅を目指して参ります。

年度	1人当たり 年間労働時間 (時間)	平均 労働者数 (人)	総労働時間 (時間)	死傷 者数 (人)	類別死傷災害発生状況
2010	1,944	113	219,672	1	転倒 1件
2011	1,952	116	226,432	3	はざまれ巻き込まれ 2件、 墜落・転落 1件
2012	1,944	113	219,672	2	その他 2件
2013	1,944	121	235,224	2	はざまれ巻き込まれ 2件
2014	1,968	133	261,744	6	転倒 2件、交通事故 2件 切れこすれ 1件、その他 1件



■ 無事故表彰

当社では1年間無事故(交通事故/車両故障/顧客トラブル/労働災害)を達成した収集運搬課社員に対して毎年表彰を、5年間・10年間無事故を達成した収集運搬課社員には『特別優良運転者』として表彰と褒賞を行っています。2014年度は10年間無事故達成をした社員が2名おりました。

無事故表彰者数

年度	本社		秋津		東大和		町田		合計		
	該当者 (人)	総数 (人)	割合 (%)								
2012	15	16	27	36	16	18	11	11	69	81	85%
2013	15	17	27	34	17	18	11	13	70	82	85%
2014	14	17	31	32	16	18	14	15	75	82	91%

10年無事故達成

10年間如何にして無事故であったかを振り返ると、まず第一に健康管理です。健康に自信はありましたが、収集作業には、原則として中止や延期はありません。夏の炎天下、雨や雪、路面の凍結など気候の変化に対応しなければなりません。そのような状況においては、やはり心身ともに「元気」でいられるように、業務内外を問わず、無理・無茶をしないことです。次に、基本行動の遵守です。定められた手順を守ることは当然ですが、作業前の段取り、日々状況が変化するなかでの危険予知、遅れに伴う安易な判断や不用意な行動を避けるよう心掛けています。収集の作業は2名で行うことが多いため、相手の立場に立った思いやりも重要な要素だと思います。声を掛け合い、その日の作業が終了した時に互いに反省点などを交換し合い、改善に努めてきたことも長きにわたって無事故につながった要因の一つではないかと思います。これらの経験を生かし、一人でも多く無事故を達成できるように指導していきたいです。



収集運搬課:山崎

安全衛生巡視

当社では不安全状態や不安全行動を発見し、是正・改善するため、「安全衛生巡視」を実施しております。改善点が発見された際は、改善日を決め、再度点検を行います。安全衛生巡視を行うことは、物理的な危機回避だけでなく、巡視をする側・現場側ともに改めて安全に対して認識する機会を得ることができます。今後も内側・外側の両面から安全な環境を確保して参ります。



エコ工場安全対策の推進

フォークリフトの作業について作業指示書を作成しました。運転時の事故を防ぐために毎年、免許所持者に対して製造メーカーによる安全講習会を開き事故の防止に努めています。



【フォークリフト始業点検項目】

- ①制動装置及び操縦装置の機能。
- ②荷役装置及び油圧装置の機能。
- ③車輪の異常の有無。
- ④前照灯、後照灯(尾灯)、方向指示器、及び警報装置の機能。
- ⑤作業装置及び油圧装置の機能。

事故防止対策委員会

収集運搬課では月に1度、本社にて各詰所の班長が集まり事故防止の対策について議論を重ねております。地域密着型を目指し事故をなくすために行っており今年で15年目になります。個別収集の走行ルートは多岐にわたりますので社員同士の安全ルートの情報共有がとても大切です。特に年末年始はごみの排出量が増加するため『急いでいるのはみな同じ』を念頭に作業に取り組むことを促しています。



LED照明工事の安全対策

2010年環境イノベーション事業部コンサルティング課設立以来、LED照明工事を行う機会が増加しました。LED照明の配線工事は有資格者が行い、念入りな現調を行った上で、工事中の事故を防ぐための声出し確認を徹底しています。工場などで高所作業車を扱う際は、安全帯を正しく身に着け、フックをフック掛けに確実に掛けて作業を行うように指導を徹底しています。また高所作業時には、施工する場所・障害物・地盤状況などの確認を行い、技能講習修了者が高所作業車の操作を行っています。また、ヒヤリハット事例をミーティングなどで共有し、安全作業を心掛けています。





■ お客様の省エネ活動を後押し

当社は、照明・空調設備の更新のご提案を通して、お客様の省エネ・環境活動をサポートさせていただいている。また、助成金や導入時のポイントなどをメルマガやセミナーにて提供しています。実際に、LED照明を導入したお客様からお喜びの声や、再受注の依頼も多数いただいております。今後は導入してくださったお客様へのアフターフォローメニューを充実させていきたいと考えています。

導入事例

自動車整備工場様/LEDランプご導入

お客様の声
長寿命のLEDランプにすることで、高天井水銀灯ランプ交換の負担が減少しました。また、作業現場が明るくなり、作業効率の改善につながったと感じています。

照明 CO₂削減量=42.6t-CO₂/年

某美容院様/中小企業向けの補助金活用

お客様の声
補助金を活用することができ、省エネルギー機器を低コストで導入することができて良かったです。明るさも導入前よりも改善され、満足しています。

看板照明 店内照明

省エネ照明セミナー

お客様にご提案を行うなかで、「省エネ機器を導入したが、予想していたよりも明るさが出なかった」、「すぐ壊れてしまった」など、さまざまな失敗談を聞きました。そこで、「失敗しない省エネ照明の選び方」のセミナーを開催し、お客様にあった照明選びのポイントをお伝えしています。



商材情報や助成金の情報をメルマガにてご案内しております。
配信ご希望の方は当社HPよりお申し込みください。

「加藤商事」で検索。

加藤商事

検索

<http://katosyoji.tokyo/>



■ 地域住民とのコミュニケーション

地域の方々と一番触れる機会が多いごみの収集運搬では、無事故の徹底をはじめ、地域住民とのコミュニケーションも大事にしています。ステーション回収から戸別回収への変更や、細かなルール変更などに伴い、できるだけ住民の方に直接話をして、周知することを心掛けています。お客様からの声に耳を傾け、些細な変化にも気をかけて作業に取り組んでいきます。

お客様の声

お客様の声① 「カラスのいたずら」

自宅前のごみがカラスにより散乱しており、用事を終え掃除をしにいこうとすると、すでに作業員の方が掃除を終えており、とても気持ちのいい応対とともに機敏に清掃していただき、頭の下がる思いでした。

お客様の声② 「さわやかな風」

可燃ごみを玄関先に入れない状態のまま置き忘れていたところ、収集の方がみえて声をかけてくださいました。無事出すことができ、猛暑で大変な作業の中で、私のような“うっかり”にも対応していただきありがとうございました。暑さのなかにさわやかな風が吹いた出来事でした。

お客様の声③ 「プロ意識」

玄関先に可燃ごみを出すのを忘れていたところ、門の中の7mも離れたごみにも気づき、声をかけてくださいました。プロ意識が高く、取り残しがないようにと気を配ってくださっている収集の方々に感謝いたします。

担当者の声



「回収方法の変更に伴い」

収集運搬課 富永

昨年10月から回収方法がステーションより戸別に移行し、ルールも一部変更となつたため当初は戸惑っておられる方も多く見受けられました。行政から事前に周知もされていますが、直接お話しし、コミュニケーションを図りつつ一緒に環境美化の一助となるよう作業しています。



「もっとも大事な事」

収集運搬課 吉川

すべてにおいて安全作業はもちろんの事、お客様の気持ちになって作業しています。お客様への挨拶も普通に挨拶するのではなく、心のこもった挨拶を心掛けている。お礼の言葉をいただく事は大変素晴らしい事ですが、もっと大事な事は、日々何事もなく仕事を終えることだと思います。一日一日安全作業を積み重ね、会社とともに発展していきたいと思います。



「お客様の立場となって」

収集運搬課 山崎

日々心掛けている事は、安全に作業をするという事です。交通ルールを守って、歩行者や自転車などに注意して、助手、運転手と協力して声を掛け合いでいるだけ危険をなくすように心掛けている。また、収集作業では、お客様の立場となって収集時間なども考えて取り漏れや後出しなどもないように丁寧に作業することを意識しています。



当社ではISO14001の認証を取得し、環境マネジメントの継続的改善を図っています。前期第三者審査で指摘があったグリストラップ清掃作業に関する環境影響予防対策と、グリストラップ清掃関連の業務の作業手順並びに臭気問題についてお客様よりクレームをいただいたことを受け、「業務に必要な講習会の開催・受講及び資格取得による専門知識レベルの向上」に特に力を入れました。具体的な取り組み内容としては、

1. ヒューマンエラーに関する教育
2. 業務平準化及びミス低減のための業務マニュアル策定
3. 作業完了確認書の作成及び運用

以上3点について取り組みました。

結果として、その後同様のクレームは発生しておりません。今後も“お客様を第一に”考えた取り組みを進めて参ります。

第55期 環境目的目標		
目的	目標	実績
新規環境関連サービスの提供による顧客及び社会に対する啓蒙・啓発活動	省エネ商材販売によるCO ₂ 削減	△
事故ゼロ達成による環境汚染の予防	従業員の安全意識向上による事故の撲滅(発生件数:0件)	○
地域環境への貢献活動実施	地域に根差したCSR活動の実施	○
持続可能な地球環境を創造する企業の確立	業務に必要な講習会の開催・受講及び資格取得による専門知識レベルの向上	○

自己評価(マネジメントレビューより)
○:達成 ○:おおむね達成 △:努力の余地あり

■ 環境データ

当社では、工場における容器包装プラスチックの圧縮梱包に係る電力と収集運搬車両の燃料である軽油が中心となります。工場の設備を省エネタイプのものに更新したことにより、電気使用量が減少しました。



■ 加藤商事 鉾田市秋山発電所(2MW)が稼働開始

今年度は茨城県鉾田市に2MWの太陽光発電システムを設置しました。“メガソーラー”と呼ばれる大規模太陽光発電の導入により、CO₂削減、エネルギー自給率の向上を目指します。



鉾田市秋山発電所の航空写真

太陽光発電システム概要

設置場所	茨城県鉾田市秋山
定格出力	2MW
売電単価(税抜)	40円
年間予想発電量 約220万kWh	CO ₂ 削減量 約1,000t-CO ₂ /kg
年間石油削減量 約50万ℓ 18ℓのボリタンク 約28,000本分	

■ 第三者審査結果

第55期の第三者審査では、審査員より“グッドポイント”を2つ頂戴する結果となりました。

審査員から“グッドポイント”

1. K料理店のグリストラップの清掃現場の立会をさせていただきました。作業前の養生をし、周辺への飛散に注意しながら迅速に作業をし、作業終了後チェックシートに基づき確認をされていました。昨年に比較し、作業改善が図られていると評価します。
2. 第一、二工場とも新しい中間処理設備であり、現場の人たちもキビキビ作業に従事して、挨拶も行き届いていました。当該工場としては、廃プラ梱包材がきっちり梱包され、整然と出荷前の保管がなされていました。またここ数年の間、当該梱包物の中に異物が選別を免れて流出しクレームが発生した実績はないとのことでした。

実施日	審査種類	重大な不適合	軽微な不適合	改善の機会	よい点(グッドポイント)
2014年07月16日～07月17日	第3回更新審査	なし	1件	10件	2件
2013年09月04日～09月05日	第6回サーベイランス審査	なし	1件	7件	3件
2012年09月19日～09月20日	第5回サーベイランス審査	なし	なし	7件	2件

～KATO太陽光レポート～





■ CSR作成 地域貢献

1.工場見学

前年度に引き続き、容器包装プラスチックのリサイクルをはじめとする循環型社会実現に向けてより多くの方に理解を深めていただくため、エコ工場フェニックスの見学受け入れを行い、多くの見学者の皆さんにお越しいただきました。昨年度からペットボトルの受け入れを開始し、新たな設備を導入したため、説明や資料などの見直しを行い、中間処理過程についてより詳しく学んでいただけたように工夫しています。また、現場職員が自主的に地域の美化清掃のボランティアに参加し、地域の衛生環境の向上に努めています。



2.地域防犯協力

今年度も地元の警察署、行政と協力して地域防犯啓発活動を行いました。パッカー車に防犯ステッカーを貼り、収集運搬中は音声テープを流し地域住民の方への注意を呼びかけました。

また認知症センター講習会に参加し、認知症の方の判別や緊急を要する対応などについて学びました。地域の皆さんが安心して生活できるように取り組みを継続していきます。



3.交通安全の周知・安全運転講習会への参加

収集現場作業員が収集時に交通安全の札を胸に付け収集業務を行い、交通安全の周囲を行いました。また、業務で車両を使用することが多いため、運転講習会などを活用し、交通安全を常に意識し安全運転・安全作業を徹底しています。

■ 環境教育

加藤商事では、「持続可能な環境を創る企業」という企業理念を掲げており、次の世代に持続可能な環境を継承していくことが当社の使命であると考え、環境教育を積極的に行ってています。昨年度は、多くの小学校・幼稚園に出前授業を行いました。出前授業を通して、子どもたちにごみの分別について学び・关心を持つもらうことで、各家庭で正しいごみの分別につながればと考えています。また環境行事へも参加し、環境に関するブース運営を通して、地域の方と交流する貴重な機会となりました。



■ 環境教育の取り組み一覧

期日	名称	内容
2014年5月23日	出前授業	久米川東小学校の小学4年生を対象に市と連携して、ごみの分別について学んでいただきました。
2014年5月30日	出前授業	化成小学校の小学4年生を対象に市と連携して、ごみの分別について学んでいただきました。
2014年6月26日	出前授業	野火止小学校の小学4年生を対象に市と連携して、ごみの分別について学んでいただきました。
2014年6月27日	出前授業	青葉小学校の小学4年生を対象に市と連携して、ごみの分別について学んでいただきました。
2014年7月26日	平成26年度 きよせの環境・川まつり	3Rをコンセプトとした、クイズやパンフレット配布を通じて環境について学んでいただきました。
2014年9月4日	出前授業	大岱小学校の小学4年生を対象に市と連携して、ごみの分別について学んでいただきました。
2014年10月3日	出前授業	富士見小学校の小学4年生を対象に市と連携して、ごみの分別について学んでいただきました。
2014年10月20日	東村山市 リサイクルフェア	収集車両の展示、車両の仕組みを解説し各家庭でのリサイクル活動の啓発を行いました。また、環境標語を募集し最優秀賞を受賞した標語に関しては、当社の収集車両にステッカーとして貼る取り組みを実施しました。
2014年11月20日	出前授業	学校法人清瀬学園きよせ幼稚園の園児を対象に“ごみ収集の今と昔”の紙芝居やごみ収集車への積み込み体験を実施しました。
2014年11月27日	出前授業	南台小学校の小学4年生を対象に市と連携して、ごみの分別について学んでいただきました。

担当者の声

東村山市内の小学校の出前授業の依頼を受けてから、約3年経ちますが、毎回新鮮な気持ちで授業を行っています。対象となる小学4年生は、わんぱくで興味津々な年頃だと思います。ごみ収集車を、間近で見て触ってとても楽しそうにしています。出前授業では、ごみを積み込むという作業体験も行っており、臭いや袋が汚いことなど気にせず、みんな楽しそうに作業をしています。袋が破裂する音や、私がごみ袋をたくさん持ったりすると、みんな「ワ———ッ！」と大興奮し、歓声が上がりとても盛り上がります。また私が昔のごみ屋さんの格好で登場すると、また歓声が上がり全員集まってきて質問攻めに会います。「どこから来たの？何歳なの？」中には「結婚しているの？」などさまざまです。最後に質問コーナーがありますが、みんなレベルの高い質問をしてきます。「ごみは何トン積めるの？一日の稼働台数は？ごみ収集車の値段は？」などの質問もあります。こういった体験が今後に少しでも生かされればいいなと思います。ごみの分別の事や、リサイクルの事に興味を持ってくれたらうれしいです。次年度も依頼が来ているので、また参加できることを楽しみにしています。



収集運搬課:富永

■ CSR調達基本方針

加藤商事は、関係会社様とともにCSR経営を推進していくためCSR調達方針を定めました。

公正で公平な取引の実現

オープンな取引の機会を提供し、国内外の法令・法規を遵守し、企業倫理に基づいた公平な取引を行う。

サービスの向上

市場のニーズに応えるため、質・コスト・安全性を追求する。

環境への配慮

環境への影響を十分配慮する。

パートナーとの信頼構築

パートナーとの相互の信頼関係を築くため、誠実に取り組む。また、調達活動を通じて得た情報は厳密に管理する。

CSR調達方針は

当社ホームページにて公開しております。
http://katosyoji.tokyo/csr_torikumi/4809/



こちらからもアクセスできます。

■ ISO26000の活用

加藤商事ではISO26000の7つの中核主題に沿った取り組み推進していきます。

中核主題	当社の主な取り組み		
組織統治	●コーポレート・ガバナンス ●内部統制	●リスク管理 ●ステークホルダーに対する情報開示	
人権	●国連グローバル・コンパクトの支持	●人権の尊重・差別の禁止	
労働慣行	●人材育成 ●ダイバーシティの推進	●障がい者支援 ●ワークライフバランスへの取り組み	●労働安全衛生の推進
環境	●環境マネジメントの推進 ●ISO14001認証取得	●環境目的・目標・指標の推進 ●環境ビジネスの拡大	
公正な事業慣行	●コンプライアンスの推進	●公正な取引の強化	●情報セキュリティの強化
お客様への対応(消費者課題)	●製品・サービスの品質管理および向上 ●お客様満足向上に向けた取り組み	●個人情報保護の徹底	
コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	●社会貢献活動の推進 ●次世代人材の育成	●地域社会・国際社会への協力	

第三者意見

CSR Report 2015においては、5つのテーマをCSR活動の軸と設定し、それぞれに対して、2014年度計画と自己評価を行った上で、2015年度計画を策定している。特に、CSR活動で重要な「継続」という観点からは、障害者の積極的な雇用を継続することや環境教育の継続などが大きく評価できる点である。

加藤商事がCSRレポートを発刊して以来、その質と中身の充実度が年々高くなっていることは、CSRの重要性を経営者も社員もよく理解していることの表れであると考えられる。

加藤商事は、自社の工場内では大型の機械が稼働し、そして重機を取り扱うため一步間違えば大事故に繋がりかねない危険が伴う事業である。安全成績を公表した上で、安全衛生について「社員の安全意識向上」を軸とし、事故の撲滅を目指すことを宣言したことは評価に値する。CSR活動は決して派手なものではない。しかし、その根本にあるのは「生命」である。そしてその命を守るために具体的に何をやるのか?という命題に対して、加藤商事は「安全衛生巡回」「安全講習会」を行い、月に1度の頻度で、「事故防止対策委員会」を開催している。この成果が今後事故撲滅に寄与することを見守りたい。

また、地域貢献をCSR活動の軸のひとつに据えている。近隣への理解を促進するために、工場見学を実施し、小学校・幼稚園への環境教育の一環としての出前講座を行っている。さらに、廃棄物処理業界の中でも、先駆けてCSR調達の基本方針を公表するとともに、ISO26000の活用を行っている。すでに2年ほど前から、環境報告書ガイドラインやCSR報告書に関する各種ガイドラインに準拠する発展を遂げた。昨年度は更に加藤商事がめざすところのCSRが明確になった。今年度は、前年度の課題であった点をより深化させてわかりやすい報告書になっている。廃棄物業界のCSR活動におけるリーダー企業として、今後の加藤商事の活動に期待したい。

環境省「環境報告ガイドライン」、
GRI「サステナビリティレポーティングガイドライン」
第3版との対照表は当社ホームページにて公開しております。
<http://katosyoji.tokyo/category/csr/csrhoukou/>

こちらからもアクセスできます。



 Blue Economy Labo.
ブルーエコノミー研究所

カーボンフリーコンサルティング株式会社 代表取締役
株式会社ブルーエコノミー研究所 取締役
中西 武志

略歴

シティバンクN.A.金融商品開発部部長、ゴールドマンサックス証券バイスプレジデント、クレディスイス証券金融商品開発部長、バンクオブアメリカ証券法人営業本部長を歴任後起業。国内外の政府組織、上場企業、ベンチャーなど多くの組織を支援。特に、先進的な環境経営を支える取組みであるカーボンオフセットに関しては国内TOPのマネジメント数を誇る。WFP(国連世界食糧計画)と世界初のFOOD FOR CARBON FREE PILOTプロジェクトの実施や海洋緑化、水ビジネスなど場所や領域を問わず活動の場を広げている。

東京大学経済学研究科大学院中退 国際経営学博士
カーボンフリーコンサルティング株式会社 代表取締役
CARBON FREE CONSULTING CORPORATION (USA)
member of board
株式会社ブルーエコノミー研究所 代表取締役
一般社団法人 海洋緑化クラブ 副理事長
株式会社 BEACH TOWN CFO
一般社団法人 アウトドアフィットネス協会 副理事長
九州大学工学部 大学院工学府 非常勤講師





加藤商事株式会社 <http://katosyoji.tokyo/>

■ 本 社 〒189-0011 東京都東村山市恩多町1-12-3
TEL : 042-392-1001 FAX : 042-394-1453

■ 赤坂営業所 〒107-0052 東京都港区赤坂4-4-14 未来環境創造ビル1F
TEL : 03-6277-7187 FAX : 03-6277-7197